

長久手市 協働まちづくり活動補助金及びNPO法人設立支援助成金

**令和元年度 補助団体
ふりかえりシート集**



目次

令和元年度協働まちづくり活動補助団体

1 特定非営利活動法人デジタルライフサポーターズネット…………	1
2 まざってエコ……………	6
3 キッズボランティアサークルあそびすと……………	10
4 子づれ備災クラブ……………	14
5 ういういの会……………	18
6 あいち手作り甲冑サポート塾……………	22
7 長久手ねこ救部……………	27

令和元年度NPO法人設立支援助成団体

1 NPO法人ながいく……………	31
------------------	----

令和元年度長久手市協働まちづくり活動補助金

補助事業ふりかえりシート

団体名 特定非営利活動法人デジタルライフサポーターズネット

1 事業名

地域 IT 相談会

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

名称：スマホ講習会

対象者：長久手市在住 市民（65 歳以上のシニアを想定）

実施場所：長久手市まちづくりセンター1 階フリースペース（長久手市武蔵塚 101 番地 3）

参加費：各回 300 円/人

定員：各回先着 15 名（事前申し込み不要）

広報：フライヤー配布（行政施設への設置）、当法人 WEB/SNS

日時/内容/参加者数

日時	内容	参加者数
11 月 14 日（木） 10：00～11：45	◆楽しいを増やそう！スマートフォン スマホをお持ちでない方も参加 OK	10 名
12 月 12 日（木） 10：00～11：45	◆ここだけは知っておこう！スマホセキュリティ 紛失、盗難に備えた設定や被害事例をしる	25 名
1 月 23 日（木） 10：00～11：45	◆災害時に役立つスマホ利用法 河川氾濫情報の確認や長久手市安心メール登録など	20 名
2 月 13 日（木） 10：00～11：45	◆賢く使おう！スマホ de キャッシュレス キャッシュレス決済の種類や始め方など	18 名

※各回前半を座学、後半を相談会とした

名称：デジサポ相談会

対象者：長久手市在住 市民（65 歳以上のシニアを想定）

実施場所：長久手市福祉の家（長久手市前熊下田 171）

参加費：無料

定員：15 名程度を想定（事前申し込み不要）

広報：フライヤー配布（行政施設への設置）、当法人 WEB/SNS

日時/内容/参加者数

日時	内容	参加者数
2 月 26 日（水） 15：30～17：00	相談会	13 名
3 月 11 日（水） 15：30～17：00	<中止> 施設臨時休館のため	

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

■ 相談会事業に関して

- ・参加者同士の教えあい、学びあいの様子が多数みられ交流の場になった
- ・参加者へのアンケートや質問、問い合わせ等から相談会実施ノウハウの蓄積を行えた（開催場所、時間、内容、参加費用など）
- ・当法人の活動のPRの場にもなり、賛同者が増えた（LINE 公式アカウント登録者増加）

■ 協働に関して

- ・たつせがある課、市民活動団体ういいういの会の協力により会場（長久手市まちづくりセンター）を無償で確保でき、予算の余剰が発生したため追加の相談会を実施できた
- ・長久手市役所長寿課実施の催し「いきいきライフパーティー」内で講習会のPR（フライヤー配布、説明）が行え効率的な集客につながった
- ・長寿課のアドバイスにより会場（長久手市福祉の家）の確保がスムーズに行えた

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

問題：相談会への参加を希望するが交通手段がない（自家用車を所有していない）ため会場へ行けない

課題：交通手段がない市民も参加しやすくする

対策：

- ・会場選定やタイムスケジュールを長久手市コミュニティバス（Nバス）の停留所や運行スケジュールを考慮し策定
- ・相談会を多地域で実施
- ・気軽に相談できる、身近な人材を増やす
- ・ICT 利活用（相談会のライブ配信、WEB 掲示板やメールで相談受付）

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・市民活動団体ういいういの会と協働で次年度の事業実施を協議中
- ・長久手市長寿課とシニアのスマホ利活用に関する意見交換を行い、ケーブルテレビ局「ひまわりネットワーク」が行っているシニア向けスマホ相談、啓発事業との協働事業を実施予定
- ・相談会事業を広域に展開するために、スタッフ（地域 ICT 支援員）の募集と育成

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

写真1



（写真1の説明）

「スマホ講習会」2月13日（木）10：00～11：45 長久手市まちづくりセンター

写真2



（写真2の説明）

「デジサが相談会」2月26日（水）15：30～17：00 長久手市福祉の家

協働評価シート【補助団体用】

事業名 地域IT相談会

評価項目	評価（3段階評価）
課題の解決(目標の達成) ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。	A
1 評価理由 ・参加者に変好評だった※参加者アンケートより ・計画していた回数以上IT相談会を実施できた（計画：4回 実施：5回）※実施6回の予定だったが新型コロナウイルス感染防止のため施設が閉館し1回中止	
情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。	A
2 評価理由 当事業の打ち合わせとともに、シニアのスマホ利活用に関する意見交換が行えた	
役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。	A
3 評価理由 役割分担を明確にし、事業実施が行えた 会場確保：行政 相談会運営：当法人 広報：行政、当法人	
相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。	A
4 評価理由 ・広報がスムーズに行え集客につながった ・次年度以降の事業実施につながった	

評価 A：「よくできた」「効果があった」
 B：「少しできた」「少し効果があった」
 C：「できなかった」「効果があまりなかった」

◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

打合せの回数、協働における役割分担など

打ち合わせ：6回

- ・広報に関するアドバイス（デザイン、配布・設置、PR手法）
- ・会場手配
- ・長久手市長寿課、ケーブルテレビ局「ひまわりネットワーク」、当法人の3者でシニアのスマホ活用についての意見交換を行った

◆ 今後の展開について

次のステップに向けた改善点など

- ・市民活動団体ういういの会と協働で次年度の事業実施を協議中
- ・長久手市長寿課とシニアのスマホ活用に関する意見交換を行い、ケーブルテレビ局「ひまわりネットワーク」が行っているシニア向けスマホ相談、啓発事業との協働事業を予定
- ・相談会事業を広域に展開するために、スタッフ（地域ICT支援員）の募集と育成

令和元年度長久手市協働まちづくり活動助成金 助成事業ふりかえりシート

団体名 まざってエコ

1 事業名

まざってエコ事業

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

1. 11/10 市民まつりに出店し、資源回収チャレンジのチラシを配布して活動のPRを行った。まざってエコ・ロゴマークの缶バッジづくりのワークショップも行い約 100 が体験した。
2. 11/19(火)～21(金) 4 日間にわたり「資源回収チャレンジ」を実施した。卯塚墓苑の駐車場にあるエコハウスのサテライト会場を借りて、障がい者もスタッフとなり一般市民からの資源回収の受付を行った。必要に応じて資源の分別の説明などを行った。回収した資源は市内のリサイクル事業者に引き取ってもらい 652 円の収入となった。資源回収にきた市民は延べ 108 人、スタッフは延べ 43 人。お楽しみ抽選券を配布してマルシェへの参加も促した。
3. 11/23（土祝）に「まざってエコ・マルシェ」を同じ場所で開催した。まざってエコのほか、市民グループの出店や、長久手市環境課のエコゲームなど 6 店舗が出店し、約 100 人の市民が訪れた。出店者も含めてスタッフは約 20 人。

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ・資源回収チャレンジを準備、実施する過程で、あらためて資源回収の仕組みや分別作業、市民の資源持ち込みの実態などを体験的に理解が深まった。
- ・障がい者が資源回収や分別に携わることは十分にできることが分かった。一方、障がいの種類によって担える部分と健常者のカバーが必要な部分があることも分かった。
- ・結果、リサイクル等の環境事業は、障がい者や高齢者をはじめ、すべての人が“まざって”取り組むに適した活動とあらためて感じた。
- ・今回も資源回収やマルシェに多くの一般市民や行政職員などが参加し、取り組みへの理解をさらに広められた。特に、市内リサイクル事業者の多大な協力を得られたのは今後にも期待できる。参加者アンケートでも、まざってエコの主旨を理解し賛同いただいた方がほとんどを占め、今後の活動に期待ができる。

4 問題・課題（助成事業を通して気付いた点、課題など）

- ・資源回収の持ち込み数や、マルシェへの参加者数は、もう少し増やす必要があると感じた。
- ・イベント的な取り組みだけでなく、継続的に取り組む活動（日常的に働く場）を創出していく必要があると思う。
- ・チラシやのぼり旗やロゴマークは素敵なデザインで、市民の関心を高める効果を感じた。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・今後は、一時的なイベントよりも小さなことからでも継続的な取組みに展開したい。
- ・一方で、活動への支援を増やすためにも市民を巻き込んだ啓発活動も続けたい。
- ・今後も障がいの有無にかかわらず、みんなの働く場や、役割と居場所づくりに取り組みたい。

6 助成事業の写真（助成事業の様子が分かるものを添付してください。）



協働評価シート【助成団体用】

事業名 まどってエコ

評価項目	評価（3段階評価）
課題の解決（目標の達成） ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。	A
1 評価理由 資源回収チャレンジを実施して、障がい者が資源回収に携わる際の課題を明らかにできた。また、資源回収やマルシェを通じて多くの市民に活動をアピールし、理解を広げることができた。	
情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。	A
2 評価理由 企画段階から環境課や福祉課と情報共有し、様々な協力や助言をいただいた。また、市内リサイクル事業者にも協力を得られ、今後の活動に役立つネットワークができた。	
役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。	A
3 評価理由 環境課には、資源回収とマルシェの会場提供や資材の使用で協力していただいた。福祉課には福祉事業者間での連携協力を支援していただいた。また、事業の広報に全面的に協力いただいた。	
相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。	B
4 評価理由 資源回収チャレンジへの持ち込み数や、マルシェへの参加者数に関して、もう少し増やす必要があると考える。	

評価 A : 「よくできた」 「効果があった」
 B : 「少しできた」 「少し効果があった」
 C : 「できなかった」 「効果があまりなかった」

◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

打合せの回数、協働における役割分担など

4月～3月

たつせがある課との打ち合わせ、5回（基本的に補助金申請の相談）

環境課との打ち合わせ、企画ミーティング参加12回、窓口での相談9回

福祉課との打ち合わせ、企画ミーティング参加12回、窓口での相談3回

11月19日(火)～22日(金)資源回収チャレンジ：

環境課より前日の設営協力や会場利用の説明、施設の開錠など協力をいただいた。

11月23日まざってエコマルシェ：

上記と同様に、環境課より会場設営や撤収などの協力をいただいた。

上記イベントのチラシ配布、ポスター掲示など広報に各課とも協力いただいた。

◆ 今後の展開について

次のステップに向けた改善点など

今後は、小さなことからでも障害がい者が携わる環境事業の継続的な取組みを始動したい。

また、市民を巻き込んだ啓発活動も続けたい。

今後も、障がいの有る無しにかかわらず、多くの人たちの働く場づくり、役割と居場所づくりに取り組んでいきたい。

令和元年度長久手市協働まちづくり活動補助金

補助事業ふりかえりシート

団体名 キッズボランティアサクルあそびすと

1 事業名

中学生による「長久手流ビブリオバトル」プロジェクト

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

中学生のプロジェクトチームを作り、「長久手流ビブリオバトル」を企画運営することで、市内に「本好き中学生のコミュニティー」の核を作る。派生イベントとして「長久手流ブックトーク」を行う。プロジェクトチームは6名。ビブリオバトルは、発表者3名 一般観覧者21名参加。ブックトークは、小学5年生以上を対象とし、7名の参加があった。

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ・本に関するイベントが中学生にも好評で盛り上がることがわかった
- ・団体と協働担当課との協力体制のパイプができた
- ・団体の単独開催より、広く市民に認知の機会を持つてもらうことができた

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・学校を通じた広報は時間がかかる
- ・中学生の口コミが意外と広がらなかった
- ・中学生はむしろ募集対象を広げた方がよい

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・各学校図書室で小規模なイベントを行っていく
- ・図書館でブックトークを定期開催する
- ・学校（先生）の協力を得たい

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



↑
中日新聞に募集記事と掲載して
もらいました



↑
プロジェクトチーム(実行委員会)の
打ち合わせの様子



↑
8月25日 ビブリオバトル
発表者3名に対する質疑応答の時間



↑
28日(日) プレゼンテーションの様子

協働評価シート【補助団体用】

中学生による「長久手流
デジタルコントロールプロジェクト」

評価項目	評価（3段階評価）
課題の解決（目標の達成） ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。	B
評価理由 ・今後、イベント継続への手ごたえは得られた ・多くの中学生を巻き込むことができなかった	
情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。	A
評価理由 ・事業を進めるにあたり、こまめに相談や報告をしながら進めることができた	
役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。	A
評価理由 ・各担当課とも積極的に事業に関わってくれた	
相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。	B
評価理由 ・図書館と学校図書室での広報は、単独で行うよりも、広く市民に認知の機会を持ってもらうことにつながった	

評価 A：「よくできた」「効果があった」
B：「少しできた」「少し効果があった」
C：「できなかった」「効果があまりなかった」

◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

《中央図書館》

事前の打ち合わせから、チラシ（3種類）ごとの相談とアドバイス、関連イベントに関する情報提供を頂いた。

また、館内でのチラシ・ポスターの設置と掲示への協力、イベント当日の広報

《子ども未来課》

イベント特賞である「晴れがましい経験」に関する、相談・アドバイスと提供

◆ 今後の展開について

- ・規模は小さくても定期的な開催
- ・学校内での開催
- ・学校の先生の協力を得たい
- ・対象（募集）範囲を広げる

令和元年度長久手市協働まちづくり活動補助金

補助事業ふりかえりシート

団体名 子づれ備災クラブ

1 事業名

子づれ防災サロンと防災イベント

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ・概ね小学生以下の子どもがいる保護者と子づれ防災について関心のある人を対象として、「子づれ防災サロン」を5月から月1回開催。のべ参加者は56名（同伴の子どもは数に含まない）
- ・10月に講師を招いて「防災ママカフェ」を行い、一般参加者は44名。資料のみの購入者は6名。会場内では、ビバホームさんによる防災用品の展示があった。展示品には、団体とビバホームさん共同でまとめた「親子防災ポーチ」もあった。

・11月の市内一斉防災訓練に団体としてブース出展

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ・防災意識、知識を向上させた。母達の輪が広がりつつある。（LINEグループでの情報共有）。防災の話をおおきなくできる場はとても重宝されている
- ・市内一斉防災訓練にブース出展できたことで、市民に対して「子づれ避難」について、知らせる機会となった
- ・課を通して防災イベントの情報提供があり、参加して他団体とのつばわりができた

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・自治会、幼稚園、学校など子どもの防災に関わる機関の連携がとれていない
- ・学ぶこと、やるべきことは際限ないが、発災に間に合うようにスピード感を持って動くことが難しい

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・防災キャンプ
- ・避難所運営について市民とともに学ぶこと
- ・市民、行政各課、企業の横断的連携の構築



子づれ防災サロン「ソナエル」の様子



イベント「防災ママカフェ」に向けて
ビバホームさんと打ち合わせ



イベント「防災ママカフェ」の様子



市内一斉防災訓練に参加
(北小学校)

協働評価シート【補助団体用】

事業名 子づれ備災クラブ

	評価項目	評価（3段階評価）
1	課題の解決(目標の達成) ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。	A
2	情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。	A
3	役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。	A
4	相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。	A

評価 A : 「よくできた」 「効果があった」
 B : 「少しできた」 「少し効果があった」
 C : 「できなかった」 「効果があまりなかった」

◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

毎月2回程度、直接またはメールで、イベント内容や協働の役割分担、サロンへの講師派遣などで、打ち合わせを行った。

担当課からは、市内外の防災関連情報の提供があり、各種イベントへの参加、防災に関する知見を広げることができた。

市役所内での調整や、小学校・保育園への周知、講師料の負担を実施していただいたことにより、より多くの参加につながった。

市内一斉防災訓練にて、本事業の紹介及び災害時の家庭ごみについての周知・啓発活動を実施した。

◆ 今後の展開について

- ・学校、幼保園、自治会と連携し、発災時に子ども達を守るためのマニュアルを作る
- ・2020年度は、防災キャンプを行う
- ・避難所運営について、市民とともに学ぶ

令和元年度長久手市協働まちづくり活動補助金

補助事業ふりかえりシート

団体名 ういういの会

1 事業名

「まちセンわいがやの場」提供プロジェクト

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

対象者：市民活動団体員、市民、まちづくりに興味のある人

事業内容：

- ①基本的なセミナー プレゼンテーション入門セミナーなど5件実施 参加52名
- ②定着のための実践会 プレゼンテーションジムなど14件実施 参加126名
- ③経営企画課との協働 市民まちづくり計画交流会（プロアクションカフェ）の企画に参加し、ファシリテーター2名を派遣した。
交流会後に未来図チームのミーティングを2回サポートした。

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① たつせがある課との協働でまちづくりセンター内に「わいがや広場」が確保できた。
- ② 「わいがや広場」等でセミナーや実践会を開催し178名の集客ができた。
- ③ 「わいがや広場」での協働で他の市民活動団体とのつながりができた、
NPO 法人デジタルライフサポーターズネット、和布飾りクラブ、あったかい手・整膚
- ④ 参加者には概ね高評価をいただきました。
- ⑤ 経営企画課との協働で市民まちづくり計画交流会をプロアクションカフェの手法で実施できた。

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

気づいた点

市民のニーズにあったイベントを企画すれば集客はできる。

課題

市民の間にまちづくりへの協力の輪を広げる。

まちづくりへの参加者の多様性を醸成する。

市との協働による集客を考える。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ① 「わいがや広場」で定期的なイベントを開催する
- ② 多様な主催者とネットワークを組んで面白いイベントを企画・実践する
- ③ 集まる場としての「わいがや広場」ツールを充実させる

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

写真 1



（写真 1 の説明）基本的なセミナーの開催風景

おしゃれ写真でイメージUP セミナーと簡単ネットワーク活用術セミナー

写真 2



（写真 2 の説明）「わいがや広場」での実践会風景

交流スペースの一部を「わいがや広場」に、スマホ講習会と整膚を体験してみよう実施風景

協働評価シート【補助団体用】

事業名 「まちセンわいがやの場」提供プロジェクト

評価項目	評価（3段階評価）
1 課題の解決（目標の達成） ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。 評価理由 市民団体ネットワーク力をより効果的なものにするために、①まちづくりセンターに「わいがや広場」という場を確保し、②「わいがや広場」での対話を実現した。延参加者126名。	A
2 情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。 評価理由 「わいがや広場」のコンセプトや場を活用するためのプロセスの打ち合わせを経て、協働で「わいがや広場」の設置がスムーズに行えた。	A
3 役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。 評価理由 たつせがある課との協働で、まちづくりセンター職員からの協力も得られ「わいがや広場」の活性化に向けたスムーズな運営ができた。セミナーの場所の確保や告知がしやすかった。	A
4 相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。 評価理由 ういっいの会としての単独ではなく、市との協働がアピールでき集客につながったと考えられる。「わいがや広場」での諸活動が他団体の興味を喚起をした。	B

評価 A：「よくできた」 「効果があった」
B：「少しできた」 「少し効果があった」
C：「できなかった」 「効果があまりなかった」

◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

打合せの回数、協働における役割分担など

柔軟な対応で必要な環境が整えられた。

「わいがや広場」でのIT関連のセミナーにWi-Fiが必要となったが、行政窓口としてたつせがある課が情報課やネットワーク会社との調整を取っていただき、実験的にセミナー実施時には使える環境が確保できた。

まちづくりセンター職員のミーティングでも活動に言及いただけ、職員の協力が得られた。

長久手未来図の交流会のファシリテーターを派遣することができ、まちづくり活動に興味を持つ人との繋がりができて、ういいうの会での活動に参加していただける人が増えた。

◆ 今後の展開について

次のステップに向けた改善点など

①「わいがや広場」でのイベントや対話の定期的な開催数を増加させることにより、まちづくりセンターの活性化をより一層加速させる。

②子育て世代のパパママのニーズに焦点を当てたセミナー等を企画して、若い世代のまちづくり活動への参加のきっかけを作る

令和元年度長久手市協働まちづくり活動補助金

補助事業ふりかえりシート

団体名：あいち手作り甲冑サポート塾 長久手支部

1 事業名

歴史的地域資源を活用した地域づくり・まちづくり事業

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ①対象者；長久手市民、及び長久手市の歴史的催事等への協力者を対象とした。
- ②事業内容、参加人員；*9/28：11人、10/5：6人、10/19：6人、11/2：6人、11/16：6人
12/7：6人、1/18：6人、2/1：6人、2/15：6人、3/7、3/21 コロナウィルスの為無期延期
- ③講師数；延べ21人

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① 募集方法について：募集チラシの配布に関して長久手市のご協力に感謝申し上げます。
応募人員については予算上8人を上限としたが、6人の応募となった。
補助金により、参加者負担は少額で済んだが、参加費用は高額なイメージだったようだ。
- ② 参加者の反応は、制作に費用と時間がかかることへの理解が得られ、制作の難しさを理解するとともに、各部が完成するごとの喜びが増大したようだ。戦国時代が身近なものとなり、歴史ある郷土への愛着が増したと言われた。
- ③ 今後期待される着地型観光推進のコンテンツとなり得る郷土の歴史と関係した武具製作にかかわったことで市民のアイデンティティー醸成につながると思われる。

4 問題・課題（助成事業を通して気付いた点、課題など）

- ① 長久手市の活性化への可能性が高いこと。
- ② 歴女などに表されるように歴史に関心興味が高い層が、地元や全国にあること。前回の講座でも図書館で資料を借りながら講座に参加した地元小学生もあり驚かされた。
- ③ 甲冑にも日本の匠の技と意匠のすばらしさが世界的な認知を得てきたこと。
- ④ メディアの激変。甲冑づくりの記録やSNSへの投稿等進化が顕著であること。
- ⑤ 長久手市には福祉の家、文化の家、あぐりん村など有効に活用できる場が多いこと。
- ⑥ 一社）長久手市観光協会は情報チャンネルとして有効性があること。
- ⑦ 当塾は長久手支部があるが、今後地元の組織などに協力したい。

5 新たな展開（今後の目標、新たに組みたいことなど）

- ① 長久手古戦場桜祭りをはじめ地元の催事への協力を継続すること
- ② 長久手市と関連するより広域な着地型観光推進への協力
- ③ 市役所や一社）長久手市観光協会との連携強化

6 助成事業の写真（助成事業の様子が分かるものを添付してください。）



（写真 1 の説明）製作過程 1。

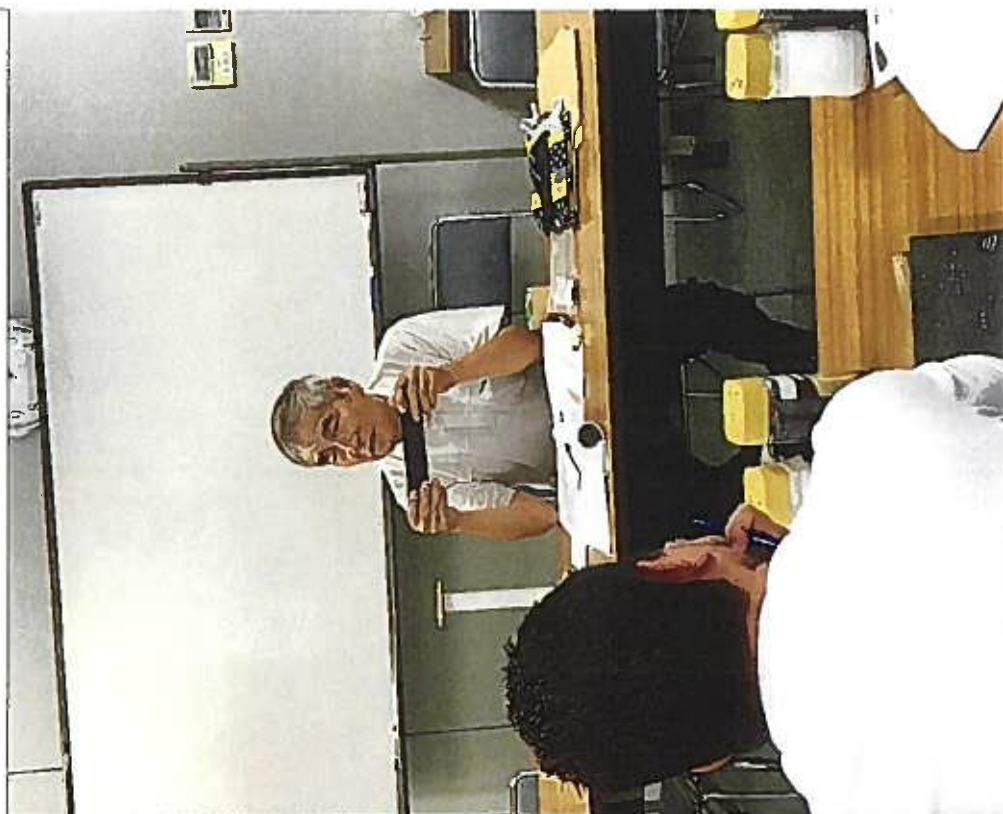


（写真 2 の説明）製作過程 2

写真3 (加藤講師による日本の甲冑の歴史講座風景)



写真4 (大中塾長による楽しい甲冑づくり講座)



協働評価シート【補助団体用】
事業名：歴史的・地域資源を活用した地域づくり・まちづくり事業

評価項目	評価（3段階評価）
課題の解決（目標の達成） ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。	B
1 評価理由 ※本年第3回目の補助金を得て、過去2回の事業と併せて基本的な目標は達成できたと考える。ただ、過去2回は定員を超える応募があったが今回は定員をわずかに下回った。参加費用の問題もあったと考える。 ※今後の地域の歴史に関連する祭り催事や、文化の家の活動に協力してゆきたい。	
情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。	A
2 評価理由 ※たつせがある課、一社）長久手市観光協会、文化の家、福祉の家との連携を得た。 ※サポート塾役員会の承諾。	
役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。	B
3 評価理由 ※長久手市役所の助力により会場の手配できたことや、一社）長久手市観光協会の募集に関する協力に感謝したい。	
相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。	A
4 評価理由 ※講師に愛知県内の、清州市観光協会長、桶狭間古戦場祭り実行委員会副会長、西尾市観光協会など愛知県の歴史観光に係る組織との相互理解・連携の契機となった	

評価 A：「よくできた」「効果があった」
B：「少しできた」「少し効果があった」
C：「できなかった」「効果があまりなかった」

◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

打合せの回数、協働における役割分担など

- ①指導母体である「あいち手作り甲冑サポート塾」にとって持ち出し事業となることに塾内の合意を必要とした。
8/4の同塾第56回役員会にてこれまでの長久手市との協働関係を十分に考慮し、持ち出し事業であっても実施することに100%の役員の承諾を得ることができた。
- ②一社）長久手市観光協会への募集等協力要請。
- ③たつせのある課、生涯学習課との意見調整、予算に関する打ち合わせなど
- ④古戦場公園みんなでやらん（会）への参加
* 打ち合わせ；個別担当者打ち合わせ；多数回
- ⑤ながくて市民大学の講師として2/22「甲冑の歴史と楽しい甲冑づくり」を講演

◆ 今後の展開について

- * あいち手作り甲冑サポート塾としては、ここまでの「よそ者」の限界かもしれない。
ただ、同塾は長久手市の歴史を基にした着地型観光の推進に関し協力してまいりたいと考える。
- ・ 長久手古戦場桜祭りへの参加
- ・ たつせのある課への協力
- ・ 一社）長久手市観光協会との協働
- * 県内、歴史的な関連事業との連携に関する事業展開
- * 古戦場公園「みんなでやらん会」等への協力等

令和元年度長久手市協働まちづくり活動補助金

補助事業ふりかえりシート

団体名 長久手市救護部

1 事業名

あら加雄の減少に向けた活動

2 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

里親譲渡会の実施
毎月1～2回

3 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

啓発活動を進め、市民にも理解が広まりました。

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

譲渡会場がひまわりネットワークさんで
毎月開催出来、効果があった。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

初回即成金の
27円から目標とした事から ^{昨年} クリップできたこと
今後には更に市民の意識と啓発を行い継続したい。

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

写

真

1



（写真1の説明）

ながくてエコハウスでの講演会

写真2

（写真2の説明）

協働評価シート【補助団体用】

事業名

評価項目	評価 (3段階評価)
課題の解決(目標の達成) ・当初に設定した課題が解決できたか。 ・実状やニーズを的確に把握し、事業を展開することができたか。	A
1 評価理由	
のら猫の数も確実に減っている。里親譲渡会も月1~2回開催された。	
情報共有・コミュニケーション 必要に応じて、事業担当課と打合わせをするなど、互いに情報共有、関係づくりに努めたか。	A
2 評価理由	
広報への告知や他情報も表示してもらった。	
役割分担 設定した役割分担に基づいて、協働できたか。	C
3 評価理由	
来期は役割分担を明確にしたい。	
相乗効果・波及効果 ・協働することで、団体単独で事業を行うより、効果があったか。 ・事業の成果によって、地域に、市民に波及効果があったか。	A
4 評価理由	
市民ののら猫に対する認知が高まった。	

評価 A : 「よくできた」 「効果があった」
 B : 「少しできた」 「少し効果があった」
 C : 「できなかった」 「効果があまりなかった」

- ◆ 2、3について、具体的にどんなことを行ったかを書いてください。

打合せの回数、協働における役割分担など

- ### ◆ 今後の展開について

次のステップに向けた改善点など

令和元年度長久手市 NPO 法人設立支援助成金 助成団体

ふりかえりシート

団体名 特定非営利活動法人ながいく

1 団体概要

この法人は、長久手市及び周辺地域の人々に対して、地域・企業・学校等が交流・連携するための環境を作り、子育て、子育て環境の向上に資する活動を広く行い、誰もが心豊かに暮らせるような地域社会の形成、地域コミュニティの再生と次世代育成に寄与することを目的とする。

2 申請内容

(申請年度)

子育てひろばぽんぽんの常設化に向けた運営基盤を整備する。

2019 年 6 月より、まちづくりセンター活動室にて週 3 回開設する。

子育てひろばにスタッフとして関わる市民のスキルアップを目指す。

(翌年度)

子育てひろば開催回数を月 20 回に増やす。

イベントを月 3 回程度実施し、出会いの機会を増やす。

賛助会員を増やし、市民・地域・企業等の交流・連携を強化する。

3 今年度の活動内容（対象者、事業内容、参加人数など）

◇子育てひろば：週 3 回、利用者数：1～3 組／日程度、イベント時：5～7 組程度

利用登録者数 286 人（2/6 時点）

◇青空ひろば：3 月のまちづくりセンターの閉鎖に伴い、晴天時に開催

◇ひろばイベント：月 4～6 回。市民の方に講師依頼。

◇男女共同参画市民講座：市と連携。連続二回講座（9/28、10/26）

◇ながいく公式 LINE 開設（10 月～）：クーポン等配信。登録者数：121 名（3/16 時点）

◇長久手市民まつり出展

◇プレパパママ応援講座（12/8）：NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 助成事業

◇情報発信：ホームページ、LINE、Instagram、Facebook、Twitter、チラシ、展示用パネル、子育て支援アプリ

◇子育て支援アプリ開発協力

4 活動の成果

◇愛知県の子育て支援課と、地域子育て支援拠点を開設するための話し合いの場を持つことができた。

◇ボランティアスタッフ 9 名で週 3 日、一日 3 時間の子育てひろばを開催し、8 か月以上継続することができた。地域子育て支援拠点事業の要件を満たすべく、活動できた。

◇利用者が増えている。有料でも繰り返し利用してくださる方、父子で利用された方があった。

◇子育て支援情報を収集し、親子の状況に合わせ提供することができた。スタッフも子育て経験者であり、子育てに役立つ情報を提供・交換する場にもなった。

◇スタッフ(=市民・母親)にとっても大切な居場所になっており、愛着を持って育てている場である。それが利用者にとっても居心地が良く、結果的に市民同士・親同士の助け合いになっている。

◇スタッフの支援者としての意識が向上し、成長がみられた。

◇利用者へのインタビューから・・・子どもが自由な様子で参加する姿を落ち着いた気持ちで見えられる。・必ずスタッフがいてくれて、たわいない会話ができる。・トイレなど少し離れたときも子どもを抱っこしたり、見守ってくれたりするので安心できる。・赤ちゃんと二人きりで自宅にいと気持ちが鬱々としてくることがあるので、こういう場所があって助かる。

◇コロナ感染拡大防止の措置が行われた際には、スタッフも利用者も協力し青空ひろばを開催。引きこもることによるうつ状態を防止するなど、行政で行いにくい活動を行うことができた。

5 問題・課題

◇長久手市 NPO 法人設立支援助成金と数社からの寄付金で運営費をまかなっているが、継続性に欠ける。

◇2021 年度以降の事業所について、いくつかの候補はあるものの決定していない。

◇積極的に学びたいというスタッフも多いが、なかなかスキル習得の時間を取ったり遠方で講座に出席したりは難しい。

◇地域子育て支援拠点として活動するには、子育てひろばのスタッフの育成・場所の確保など要件を満たすことと、長久手市からの委託が必要である。

6 今後のスケジュール・新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

◇現在の賛助会員に引き続き支援をお願いすると共に、市内企業などから新規の賛助会員の募集を行っていく。また、どのような仕組みを作ったら良いか、検討する。

◇開催場所について、長久手市との協議を進めるほか、企業と共同で運営することも検討する

◇子育てひろばぽんぽんの開催を継続する。一日 5 時間の開催できるように調整していく。

◇スタッフ向け研修会の実施を検討する。

◇私たちとしては、地域子育て支援拠点を運営することを目標とし、愛知県子育て支援課及び長久手市子育て未来課との関係作りに努めていきたい。

7 活動写真等（活動の様子が分かるものがあれば、添付してください。）

写真 1



（写真 1 の説明）

週 3 回行われる、普段のぼんぼんの様子と、月 1 回のリズム遊びの様子

写真 2



（写真 2 の説明）

たつせがある課と協働で行われた、男女共同参画講座の様子

☆ MEMO ☆
